

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 福田 充

	研究課題	危機管理学におけるオールハザード・アプローチによるリスク・コミュニケーション研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	新しい学問領域である「危機管理学」を構成する主な機能のひとつが「リスクコミュニケーション」である。自然災害から原発事故のような大規模事故、犯罪、テロリズム、戦争、紛争、サイバー攻撃など多様な危機に対して、現代ではそれらを予防するためのリスクマネジメントの政策のひとつとして、社会教育や政策立案、合意形成にいたる過程としてのリスクコミュニケーションの重要性が指摘されている。この危機管理におけるリスクコミュニケーションにも、「オールハザード・アプローチ」が求められる。危機管理学におけるオールハザード・アプローチとは、自然災害や大規模事故、テロリズムや戦争、紛争など多様な危機に対応するための危機管理を構築するためのアプローチである。オールハザード・アプローチのための危機管理学をどのように構築することができるか、第一に学術的かつ理論的に考察を行う。続いて、資料収集やヒアリング調査を実施することで実証的に研究を進める。
	研究成果	まず理論的な検討を行うために、専門領域の研究書や論文などの先行研究文献を収集して問題を整理し、理論的かつ学術的な考察を行った。とくに自然災害や大規模事故に対応するための災害マネジメント領域、犯罪・治安対策やテロ対策に関するパブリックセキュリティ領域、戦争・紛争や難民問題・環境問題に対応するためのグローバルセキュリティ領域、サイバー攻撃や情報流出に対する情報セキュリティ領域の4つの領域について、平成30年度に発生した具体的な事例をもとにそのリスクコミュニケーションの諸問題を洗い出した。香川大学や東北大学などの研究機関と連携しながら、具体的事象に対する研究活動を実施した。 また2020年東京オリンピック・パラリンピックのテロ対策、2019年ラグビーW杯のテロ対策、西日本豪雨災害についての情報伝達など具体的な事例についてのフィールド調査を実施し、その成果を総務省消防庁の国民保護懇話会や、神奈川県国民保護ネットワーク会合、愛知県国民保護訓練、岡山県美作市防災対策協議会に参加し、講演等によって実務活動に還元することができた。この研究で得られた成果を、日本災害情報学会などの学会において研究発表することができた。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①論文： 福田充「災害報道のあり方を考える」、『潮』(【特別企画】震災7年－災害と日本人)、潮出版社、査読なし、2018年4月号、pp.40-45。 ②論文： 福田充・中森広道・山下博之・宮脇健「日本の高等教育機関におけるBCP策定の実態」、『2018年日本災害情報学会発表論文集』、2018年10月28日(日)、東京大学。
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学会発表： 福田充・中森広道・山下博之・宮脇健「日本の高等教育機関におけるBCP策定の実態」、日本災害情報学会、2018年10月28日(日)、東京大学。
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	①講演： 福田充「大災害における危機管理」、政策研究フォーラム「新世紀セミナー」、2018年7月6日(金)、友愛会館。 ②講演： 福田充「大災害における危機管理～大地震、豪雨災害の事例から考える」、岡山県美作市「地域防災力パワーアップ講座」、2018年10月19日(土)、作東バレンタインプラザホール。 ③講演： 福田充「現代テロリズムの潮流～ソフトターゲットへの無差別テロ」、平成30年度国民保護研修会愛知「スポーツイベントにおけるテロへの備え」、2018年12月14日(金)、豊田市民文化会館。 ④講演： 福田充「危機管理学におけるリスクコミュニケーション～オールハザード・アプローチの観点から」、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー、2018年12月21日(金)、香川大学幸町キャンパス。 ⑤講演： 福田充「現代テロリズムの傾向とテロ対策の課題」、神奈川県国民保護ネットワーク第1回情報交換会、2019年3月19日(火)、神奈川県庁。 ⑥社会貢献活動： 厚生労働省「新型インフルエンザ対策に関する小委員会」委員、2018年4月～2019年3月。 ⑦社会貢献活動： 総務省消防庁「国民保護懇話会」座長、2018年9月～2019年3月、